

尖閣古資料の釣魚臺は和名「いよこん」だった

いしみのぞむ（石井望） 長崎純心大學准教授

尖閣諸島の琉球和名「いよこん」（魚根・魚國）「こぼしま」（久場島）の最古の史料として、寛政七年（西暦千七百九十五年）の土佐「下田日記」が存在することを、既に尖閣諸島文獻資料編纂會研究員國吉まこも氏が日本國際問題研究所講演で明らかにし、内閣官房領土室委託報告書に採用されてゐるがこのほど筆者は更に明確な寫本（しゃほん）を確認した。

國吉氏が講演で公表したのは國立公文書館（東京都千代田區）所藏の『土佐國群書類從』卷八十二『下田日記』寫本である。漢字の魚釣臺・久場島に「イヨコシ・コハシマ」と片假名が振ってあり、イヨコンの誤寫だと考へられる。東京大學史料編纂所の藏本では「イヨコン」に作る。イヨコンの漢字「魚根」は、後の西暦千八百十九年の琉球家譜の記述などでも確認できる。

さらにこのほど筆者は東洋文庫（東京都文京區）所藏の同日記の別寫本を閲覽複製したところ、鮮明に「イヨコン・コハシマ」と片假名が振ってあり、確かに魚根に相當することを確認した。

「下田日記」は琉球使節船が清國から歸路に土佐下田に漂着した記録である。日記中に清國人の琉球地理書「中山傳信録」（ちゆうざんでんしんろく）を参考引用してをり、同書の「釣

魚臺」（臺…だい）を和風に「魚釣臺」に變換してゐる。さらに日記中の清國地名には清國字音を片假名で振ってあるが、魚釣臺を含む琉球の地名は琉球和名の訓讀みでイヨコンなどの形となつてゐる。これらは文化的に釣魚臺がもともと琉球の地名と見なされてゐたことを示す。通常、漢文の地名は日本では音讀みされ、長安を「ながやす」などと訓讀みする慣例は無い。これにより、更に古い「釣魚嶼」（嶼…しよ）も琉球地名イヨコンの漢字形である可能性が高まつた。

なほ、イヨコンのイヨは、古語「うを」「いを」の變形で、コンは沖繩の地名に多い根（こん）・國（くん）と同語源と考へられる。

（別紙 東洋文庫藏『土佐國群書類從・下田日記』寫本書影）

（参考リンク）

國吉まこも 日本國際問題研究所講演 平成三十年三月二十六日

<https://www2.jia.or.jp/pdf/JIC/180326-Senkaku-Lecture-Kuniyoshi-Summary.pdf>

内閣官房領土室 下田日記

<https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/kenkyu/assets/pdf/senkaku/report/senkaku-report-no02.pdf>

東洋文庫目録 土佐國群書類從 卷八十二 下田日記

http://124.33.215.236/shoshalstrch/show_detail_allsyoshi.php?targetid=222268

http://124.33.215.236/shoshalstrch/show_detail_allsyoshi.php?targetid=238080

東京大學史料編纂所 電子圖像 下田日記（イヨコン）

<https://cloing.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/200/2041.84/20/65/0610>

令和四年三月二十四日木曜午後一時半より、インターネットで史料説明會を行なふ見込み。問合せ先 ishiwi@n-junshin.ac.jp 090-5084-7291

一 同六日晴天凡午未之間計毎辰の方日候とお申し
 一 同七日晴天凡午の方計毎卯辰之間お申し
 一 同八日卯ノ計毎相司同七時より凡辰の方にお申し
 一 同九日未申之間お申し

一 同八日晴天凡未申之間にお申し
 一 同九日晴天凡未の方計毎辰の方お申し
 一 同十日晴天凡未の方計毎辰の方お申し

一 同九日晴天凡未の方計毎辰の方お申し
 一 同十日晴天凡未の方計毎辰の方お申し